

お手軽！除草・防草のトリセツ

ちょっとした隙間に生える雑草。これがなければ、スッキリするのになぁと思ったことはありませんか？お手軽に、除草して防草するひとつの方法をお伝えします。ぜひ、お試しください。

除草 & 防草 (一事例)

1日で終わらせるなら!

(その1) 小道具で抜く

☑ 隙間に生えた草をカギ鎌などでかき出す。

あると便利な道具



ブラシ 草刈り鎌 カギ鎌

2日にわけられるなら!

(その2) 熱湯で楽に抜く

☑ 熱湯を根元に散布すると7~10日後が抜き頃。

枯れすぎると、ちぎれて抜きにくい。



☑ 草丈が短くて抜きにくい時は枯死後のバーナーが良い。



シリコンでパック

☑ 隙間が大きい場合は、近くにある土を補充して、ほうきなどで均してからパッキング。
(シリコンの量の目安は、2cmの隙間に1mlに80gです。土は珪砂5号で埋め戻した方が種が入りにくいです。)
☑ キャップ付きドレッシングボトルが注入しやすい!



シリコンの性状や、購入については、(一社)小規模保全技術研究所にお問い合わせ下さい。

お問い合わせフォームは、こちらをご覧ください。



珪砂とウレタン樹脂を主材とした練材でパック

☑ 材料を混合して、練り混ぜ、コテでしっかりと押さえながら左官仕上げ。



材料の性状、購入については、小泉製麻(株)にお問い合わせ下さい。

作業手順は、こちらをご覧ください。



所々草が再生した時は除草を繰り返す

☑ その部分だけ草を除いてパッキング。
何もしない時と比較すると雑草の再生は激減します。

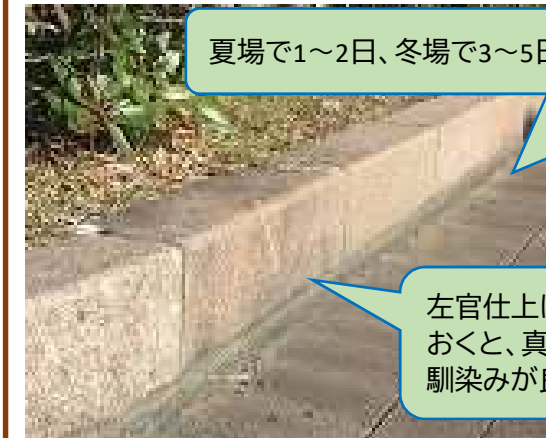


作業手順は、こちらをご覧ください。(2022年の除草講習会の動画です。)



完成

☑ 施工から3週間経過後。



夏場で1~2日、冬場で3~5日程で固まります。

左官仕上げ後に、珪砂をかけておくと、真っ黒にならず他と色馴染みが良くなります。

草の成長管理

☑ 熱湯を根元に散布すると細胞が壊れて植物が枯死します。
☑ 熱湯を根元に散布すると土中の種も枯れ、草が生えにくくなります。

根の上部を57℃以上で一定時間キープすると、変質して茎葉へ水や養分を送れなくなり枯れます。



・枯れた雑草を取り除けば、表面的には雑草はなくなりますが、根までは枯れていないため、草は再生します。
・少し草が生えてきた段階で、再び熱湯を散布し、雑草が大きくなるように管理してみてください。

※番外編